

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：34507

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K21074

研究課題名(和文) 高等学校における特別支援教育推進のための教職員研修プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of school personnel training program for special support education promotion in high school

研究代表者

酒井 貴庸 (Sakai, Takanobu)

甲南女子大学・人間科学部・講師

研究者番号：50744108

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：高等学校における特別支援教育の推進には遅れが認められており、その推進のために研修会や講演会が全国各地で行われている。しかし、教師にはどのような知識や技能が、どの程度必要であるのか明らかになっていない。そこで、発達障害の1つである自閉スペクトラム症(ASD)に焦点をあて、ASDおよび応用行動分析(ABA)の知識が、ASDに関わる教師およびASD傾向をもつ生徒にどのような影響を及ぼすのか、客観的指標を用いて縦断的に検討した。

その結果、ASDおよびABAの知識は150分の研修で高めることができ、それらの知識の維持によってASD傾向をもつ生徒の精神的健康状態の改善、維持に有効であることが示された。

研究成果の概要(英文)：The delay is admitted in promotion of the special support education in the high school, and the training association and the lecture meeting to promote it are held in nationwide various places. However, it is not clarified how what knowledge and the skill are necessary for the teacher. We examined how the knowledge of ASD and Applied Behavior Analysis affects teachers and students with ASD in a longitudinal study.

As a result, the knowledge of teacher's ASD and ABA was able to be improved by training, and it was shown that it was effective for the maintenance of the state of mental health of the student with ASD tendency if the teacher was possible to maintain the knowledge.

研究分野：特別支援教育

キーワード：自閉スペクトラム症 研修効果 高等学校

1. 研究開始当初の背景

2007年4月1日、学校教育法等の一部を改正する法律(改正学校教育法等)が施行され、特別支援教育が本格的に実施されることとなり、小中学校においては通常学級における支援に加え、特別支援学級や通級指導教室の活用によって対象となる児童生徒は支援を受けている。しかしながら現状では、高等学校における特別支援教育の支援体制整備は、小中学校に比べ遅れている。

発達障害のなかでも自閉スペクトラム症(ASD)傾向をもつ生徒(ASD生徒)は、思春期において抑うつ症群や不安症群との親和性が高く、ASD傾向が高い高校生は低い高校生に比べて、精神的健康状態が悪いことが示されている。

また、発達障害に関わる教師は、心理的ストレス反応が高く、教師効力感が低くなりやすいことが指摘されている。先行研究では、研修を用いた介入によって、教師の心理的ストレス反応の低減や教師効力感が向上することが示されている。これまでの研究では、教師の知識の程度(知識度)の変化を測定するために尺度が用いられているが、それらの尺度の測定精度は高いとは言い難い。

2. 研究の目的

先行研究に基づき、高等学校の校内研修として実行可能と考えられる150分間1回の研修プログラムを開発する。研修プログラムを実施し、ASD生徒の担任をしている教師のASDおよび応用行動分析(ABA)知識度、心理的ストレス反応、教師効力感対象に150分の研修をその知識度の向上が教師の心理的ストレス反応、教師効力感に与える影響について検討する。また、その教師が担任するクラスに在籍するASD生徒の精神的健康状態の変化についてもあわせて縦断的に検討する。

なお、本研修プログラムには、研修の受講によって操作される教師の知識度を、十分な精度が認められた尺度を用いた測定、e-learningによる研修内容の復習、研修実施校における生徒のASD傾向および精神的健康状態の報告を含む。

3. 研究の方法

研修前(T1)、研修直後(T2)、研修1か月後(T3)および3か月後(T4)の計4回、教師を対象に質問紙による調査を実施し、下記の指標に回答を得た。

ID,
性別,
年齢(20代:1, 30代:2, 40代:3, 50代:4, 60代:5),
教員歴(5年未満:1, 6-10年:2, 11-15年:3, 16-20年:4, 21-25年:5, 26-30年:6, 31-35年:7, 36年以上:8),
ASDと思われる生徒の担任経験の有無,
担任しているクラスでASDと思われる生徒

の人数,
現在担任しているクラス,
Literacy Scale of Characteristic of Autistic Spectrum Disorder(酒井・設楽・脇田・金澤・坂野・園山, 2014)
DSM-IV-TR(APA, 2000), ICD-10(WHO, 1992),
「教育的対応のための定義・判断基準」(文部科学省, 2008)から項目収集されて開発されたASDの障害特性についての知識の程度を測定する尺度である。Item Response Theoryに基づいて開発され、「Yes」「No」「Don't Know」で回答を得る。一般的な高校教師を対象とした場合における十分なテスト情報量を考慮し、22項目を使用した。知識度は、おおそ-2.000から2.000の間で算出される。特性値が高ければ高いほど知識度が高いことを意味する。

教師用応用行動分析チェックリスト(小関・森・加藤・佐々木, 2010)

教師の応用行動分析および行動療法についての理解度(以下、ABAの理解度)を測定するためのチェックリストで「強化の随伴性」「消去」「罰の用い方」「機能分析」「分化強化」「環境調整」などの応用行動分析および行動療法の知識全体を包括的に測定する指標である。25項目について4つの選択肢から正しいと思われるものを選択して回答をする。

心理的ストレス反応尺度(SRS-18)(鈴木・嶋田・三浦・片柳・右馬埜・坂野, 1997)

成人の心理的ストレス反応を測定するための尺度で、全18項目からなる。「全くちがう」から「その通りだ」の4件法で回答を得る。抑うつ・不安、不機嫌・怒り、無気力の3因子と合計得点でストレス反応の程度を弱い、普通、やや高い、高いの4段階で評価可能な尺度である。得点が高ければ高いほど心理的ストレス反応が高いことを意味する。

教師効力感尺度(谷口, 2006)

中西(1998)の教師有能感尺度を参考にして、教科指導、生徒指導、職場の人間関係の3つの領域における教師効力感を測定するために作成された自己評定式尺度である。各領域5項目ずつ合計15項目からなり、「全く違う:1点」から「その通りだ:4点」の4件法で回答を得る。得点が高ければ高いほど教師効力感が高いことを意味する。

ASDと思われる生徒で、指導・対応に苦慮している生徒の行動や特徴、その生徒への現在行っている具体的な対応方法、今後どのように対応していくのが良いと考えているかについて自由記述による回答を得た。

教師の調査にあわせてT1, T3, T4の計3回、生徒を対象に質問紙による調査を実施し、下記の指標に回答を得た。

ID,
性別,
年齢

自閉症スペクトラム指数 (AQ) 日本語版 (若林, 2003)

高機能自閉症者と定型発達者を識別する自記回答案式尺度。ASD を特徴づける 5 つの領域, 社会的スキル, 注意の切り替え, 細部への注意, コミュニケーション, 想像力について各 10 問ずつ全 50 項目からなり, 「はい」か「いいえ」の 2 件法で評定する。尺度全体の Cronbach の係数は 0.81 で (若林, 2003), 信頼性は十分な水準であることが示され, 33 点がカットオフポイントと妥当とされている。生徒の ASD 傾向の測定のため使用した。

日本語版 Profile of Mood States 短縮版 (POMS) (横山, 2005)

気分状態を測定する尺度であり, 「抑うつ 落ち込み」「緊張 不安」「怒り 敵意」「活気」「疲労」「混乱」の下位尺度を含む 30 項目からなり, 5 件法で評定を求めた。生徒の全般的な精神的健康の状態を測定するために使用した。素得点は性別や年齢によって影響を受けることため, T 得点を算出して解析に用いた。T 得点は 60 点未満までが「健常」, 60 点以上 75 点未満が「他の訴えとあわせ, 専門医を受診させるか否かを判断する」とされている。

4. 研究成果

研修プログラムの実施によって, ASD 生徒を担当する教師の ASD および ABA 知識度は, 150 分の研修であっても十分に高められることが明らかになったが, その後の知識度の維持については e-learning の使用の有無, 頻度によっても個人差があり, e-learning の有効性が示されたとともに, 一程度の視聴を促すシステム導入の必要性が認められた。

ASD を担任する教師の ASD および ABA 知識度が高まったことによる効果は下記である。

「支援方法の導入時まで知識度が維持される」と, 教師は ASD 生徒に対し特性を考慮した配慮や ABA に基づく支援が行えるようになる。

「教師の ASD および ABA 知識度が長期的に維持される, もしくは, 知識度の上昇は一時的であったとしても, ASD 生徒に有効な支援方法を導入し, その支援の効果を体験する」と, ASD 生徒の担任教師の教師効力感 (特に生徒指導) が向上する。

「行動の原理やアセスメントが正しく活用された対応方法が導入されると, ASD 生徒の精神的健康状態が改善する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

【査読あり】

酒井貴庸・杉中拓央 (2015). 特別支援教育

分野におけるインストラクショナルデザイン
の適用可能性の検討. 障害科学研究, 39, 125-132.

【査読あり】

Takeda, T., Y Tsujii, Y., Kanazawa, J., Sakai, T., & Weiss, D. M. (2016). Psychometric properties of the Japanese version of the Weiss Functional Impairment Rating Scale: Self-Report. *Attention Deficit and Hyperactivity Disorders*, 8, 1-9.

【査読あり】

佐々木銀河・酒井貴庸・杉中拓央・宮本信也・野呂文行 (2016). 児童養護施設における自立支援計画の全国実態調査: 日常生活支援への適用にむけて. 子供の虐待とネグレクト, 18, 81-92.

〔学会発表〕(計 2 件)

Sakai, T., Okada, K., Shibata, Y., Nomura, A., Fukumoto, R., & Nomura, K. (2015). Examination of the Strength and Difficulties Questionnaire (SDQ) with item response theory. The 8th Congress of the Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions. Kuala Lumpur, Malaysia.

酒井貴庸・金澤潤一郎・西郷達雄・田山淳・設楽雅代・武田俊信 (2015). 注意欠如・多動性障害の障害特性に関する知識尺度 (Literacy Scale of characteristics of ADHD: LS-ADHD) 開発の試み. 日本特殊教育学会第 53 回大会. 仙台.

Sakai T., Fukumoto R., Nomura A., & Nomura K. (2016). Development of a Literacy Scale of Characteristics of Learning Disorder (LS-LD). The 22nd International Association for Child & Adolescent Psychiatry and Allied Professions World Congress. Calgary, Canada.

〔図書〕(計 1 件)

酒井貴庸・松本真理子・永田雅子・野邑健二 (2016). 中学生・高校生 学習・行動が気になる生徒を支える 明石書店.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

酒井 貴庸 (Sakai Takanobu)
甲南女子大学・人間科学部心理学科・講師
研究者番号：55744108

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()